

# 埼玉県川口市（鳩ヶ谷地区）等における地域連携活動報告

篠崎 健司

## Report of the Activities on Regional Collaboration in Hatogaya, Kawaguchi-City in Saitama.

Kenji SHINOZAKI

### はじめに

本報告は、埼玉県川口市の旧鳩ヶ谷市エリアを中心に行われた地域イベント「2016日光御成道鳩ヶ谷宿夏の陣」において、本学のコミュニティデザイン学科学学生有志が参加協力を行ったその活動記録である。この活動は、同イベントの実行主体である鳩ヶ谷商工会及び埼玉高速鉄道株式会社より跡見学園女子大学に対して参加協力の要請があり、それを受けてコミュニティデザイン学科として対応する旨の検討がなされ、つる理恵子学科主任とともに著者（篠崎）が担当したものである。

この活動は本学科としては地域活動の実践の場として期待できるとともに、地域の側としてもイベントの充実及び地域の活性化に向けて期待できることから、両者ともに今後もその連携の度合いを深めていきたいと考えている。

今年度は、大学の関わりの時期が遅れ、イベント等の内容も確定した段階からの参加であったことから、まずはどのようなイベントなのか、どのような地域なのかを知る機会として、学生はイベント2日間のスタッフとしての参加と鳩ヶ谷商工会の職員の案内による地域見学を行った。次年度以降は、実行委員会等への参加などより深く活動に参加することを検討している。

なお、本稿では鳩ヶ谷とは別に学生が主体的に関わっている福島県広野町の地域連携活動及び北海道南富良野町で予定している地域連携活動についても簡単に報告する。

### 1. 鳩ヶ谷との連携活動の経緯

本学と川口市との地域連携活動は、これまで数年にわたり生活環境マネジメント学科の学生（担当教員：石渡尚子教授）が、西川口駅周辺の賑わい創出と埼玉県内の食の活性化を目的に川口市で開催された『川口B級グルメフェスティバル』の実施運営を担っており、今年度は同イベントに代わって、平成27年度から始まった日光御成道鳩ヶ谷宿のイベントへの参加要請がなされたことがきっかけとなっている。石渡尚子教授から地域活性化等のテーマ性からコミュニティデザイン学科でも取り組んでみてはどうかとの提案があり、コミュニティデザイン学科として取り組んでいくこととなった。

その後の経緯は以下のとおりである。

表-1 活動の経緯

年月日	会合名等	内容
平成28年4月28日(木)	鳩ヶ谷・大学打ち合わせ	本学(新座キャンパス)にて、埼玉高速鉄道(株):押田善司常勤監査役、栗原彰総務部事業推進課課長、川口市観光物産協会:櫻井智明専務理事、川口産業振興公社:鹿岡嘉昭事務局長、鳩ヶ谷商工会:佐藤美治事務局長、田部雅樹経営指導員が来校され、本年7月2日(土)・3日(日)開催予定の「鳩ヶ谷宿夏の陣」への学生参加の要請があり、ただし、すでに実行委員会も動いていることから、企画段階からの参加ではなく、当日のイベントに参加(見学)してもらい、来年度以降、関わりを密にして行きたいとの提案がなされた。
5月18日(水)	学科会議	学科として、鳩ヶ谷との地域連携活動に取り組むことが了承された。
6月11日(土)	現地視察	つる学科主任、篠崎が現地視察を行い、櫻井専務理事(川口市観光物産協会)、佐藤美治事務局長、田部雅樹経営指導員(鳩ヶ谷商工会)から地域の案内とイベント当日の流れ等の説明を受けた。
6月17日(金)	第二回実行委員会	日光御成道鳩ヶ谷宿夏の陣実行委員会につる学科主任、篠崎が参加した。会議内容は当日の全体進行の確認及び各担当者の役割分担等の確認が行われた。

## 2. イベントの様子

参加学生はコミュニティデザイン学科の2年生4名、1年生11名の合計15名であり、7月2日、3日の両日とも参加した学生もいたことから、2日は12名、3日は7名の参加となった。

学生は両日とも3グループに分かれ、それぞれ①イベント会場を中心にチラシやマップの配布、③福引き抽選会のスタッフ、④鳩ヶ谷の商店街等地域視察を行い、1日のスケジュールを3つの活動と合わせ、各グループは活動をスライドさせながら等しく経験できる形とした。

初日のイベントでは、開会式の壇上にも学生が並び、学生の希望者は浴衣(着付け)での参加となった。(3日のイベントは跡見学園女子大学のポロシャツで参加)



図1 開会式(7月2日)(筆者撮影以下同じ)



図2 会場にて参加者にマップ等を配布



図3 別会場にてチラシや告知内容の確認



図4 福引きを通して交流



図5 商工会職員から地域の成り立ち等を学ぶ



図6 まち歩き（地域視察）



図7 反省会の様子



図8 荻野洋埼玉高速鉄道㈱代表取締役社長

### 3. 参加学生の感想

イベント終了後、参加学生から感想をレポートとして取りまとめを行った。概要は以下のとおりである。

#### 3-1. 主な感想

##### ■大勢の人の関わり

- サポートする人たちの人数の多さに驚いた。今回のお祭りの為だけに普段は違う職場で働いている人たちが集まって、協力し合っていることを知ってとても感激した。
- いろいろな人がいろいろなところで頑張っていることを改めて感じた。地域の方の力を合わせてお祭りができていると感じた。
- わずか2日間のイベントにも多くの人の関わりがあることを知ることができた。

##### ■地域の方の温かさ

- 地域の人たちの優しさや温かさを感じた。
- 実際に地域の方の話聞くことによって、聞くまではあまり気になっていなかったことが、商品や地域の素敵なところがわかり、話を聞いてからはどれもが気になった。
- 鳩ヶ谷の皆さんの温かさにも触れることができ、鳩ヶ谷の人のように温かく自分の住んでいる地域を誇りに思えるようになりたいと思った。

##### ■地域の人との交流

- 実際に模擬店を運営されてる方、また案内をしてくださった方から貴重なお話を頂き、貴重な体験ができた。
- 鳩ヶ谷の住民の方とも直接関わることができ貴重な体験となった。

##### ■イベント企画運営側としての参加

- いつもはお祭りを楽しむ側にいるが、今回はお祭りを手伝う側にまわり、違った楽しさがあった。お祭りの開催

には大勢の人が関わり、その中の一人として参加することができ良い体験となった。

○企画している人たちが何より楽しんでいることがとても伝わってきた。だからお祭りに行く側も楽しい気分になれるのだと思う。

### 3-2. イベントへの提案

#### ■若い世代、同世代の参加

○若い世代の人が少なかったので若い人向けのお店や企画があれば良い。

○自分たちと同年代の参加が少なかった。同年代の世代はSNS等も良く使うので、同年代の参加者が増えればSNSを通じてさらに参加を拡大することができるのではと思う。

○高校生や若い人たちがあまりいない気がしたので鳩ヶ谷のB級グルメをもっと推して売り出していったら良い。

○ちびっこ広場での遊び場は小さい子供には向いているが、中学生程度の子供が来場したとしたら物足りないのではないのかなと思った。

#### ■広報・宣伝の工夫

○商品はその地域ならではのものやそれぞれ背景があったので、それをパンフレットなど紹介ができるものがあったら良い。

○イベントのポスターが埼玉高速鉄道駅には多く貼ってあったが、さらに大宮駅など人がたくさん出入りする駅やショッピングモールなどにも貼り出してはどうか。

○お祭りに来ていただかないと良さが分からないのでインターネットなどでお祭りの開催をもっと広範囲に広めることが必要。

○駅からのイベント会場への道がわかりづらいのでわかりやすくなれば良い。

○もっと商店街に人が流れてほしいと思ったので、商店街への案内板があれば良い。

#### ■熱さ対策

○抽選会では家族連れや高齢者の方が多く参加されている印象があった。二日間猛暑日だったので、椅子をいくつか用意しておくとか子供や高齢者には優しくなかなと思った。

○すごく暑かったのもっと休憩する場所を増やしたら良い。また、暑さ対策として、テーマパークなどにあるような涼しくなる機器を置いたら良い。

○お年寄りや小さな子が多かったので、熱中症対策として涼しいところで休憩できるスペースがあると良い。

## 4. 次年度以降の取組について

### ①学生たちに見て、学んでほしいこと

「夏の陣」という1つのイベントを通して、イベントの概要だけでなく、始まったきっかけや地元や関わっている人々の思い、事務局や実行委員会の構成、準備から当日の運営、成果と課題、今後の展開などについて学ぶ。

### ②地域の取組（イベント）のきっかけ

鳩ヶ谷という地域は、そもそも、どのような歴史や社会・文化的特徴を持っているのか？

このイベントの立ち上げに関わったのは、どのような個人、集団やネットワーク、団体だったのか、また最初の実行委員会メンバーはどのような構成だったのか？

それぞれの諸個人・集団・ネットワーク等の普段の、あるいはこれまでの活動内容はどのようなことなのか？などについて学ぶ。

### ③関わりを重ね、問いを深めていく

上記の問いを掲げつつ、地域の方々の話をうかがいながら、鳩ヶ谷のことを深く知り、準備や運営に携わることで、人々の暮らしが見えてくるのではないか。それは、そのまち（地域）を知り、考えることにつながっていく。

「よその（地元住民ではない）」、「若者」、「コミュニティデザインを学ぶ学生」として、地元の方々にはあたりまえすぎて見えないこと、気づかないことに、学生の視線で気づく可能性はあると考えられることから、学生の気

づきがまちづくり等を考える上で、地域活性化や課題解決に役立つことがあるのではないか。

#### ④次年度以降の取組

来年度は、準備の段階から関わっていくほか、関わっている各団体、市役所一座、埼玉高速鉄道、商店会及び商店街連合会、商工会、観光物産協会、また地蔵院、緑化センター、鳩まめネット、komado 等へのインタビューも企画していく。

## 5. その他

### 5-1. 福島県広野町における地域住民との交流活動報告

福島県広野町は筆者が東日本大震災前から地域づくりに関わっている地域であり、震災からの復旧・復興に取り組む地域団体である「広野サステイナブルコミュニティ推進協議会（広野わいわいプロジェクト）」（以下、広野わいわいプロジェクトとする）が企画運営する都市圏住民との交流イベント等についての情報を学生に提供したところ、コミュニティデザイン学科1年の5名の学生が広野町住民との交流活動を進めている。ここではその概要を記す。

#### ○活動の概要

広野わいわいプロジェクトでは、単に交流イベントを企画するだけでなく、オーガニックコットンやオリーブを通じた都市圏住民や町外に住む町民との交流を進めている。オーガニックコットンはいわき市などで先に取り組まれている事業であるが、広野町内においてもオーガニックコットンの栽培を進め、種まきや除草、収穫などの機会に交流を行っている。さらに、オーガニックコットンで製作した人形等から種子を取り、人形を購入した人がその場所でさらにコットンを育て、収穫されたコットンを広野町やいわき市に送るといった大きな交流の輪としても企画されている。

平成28年6月5日（日）、広野わいわいプロジェクトの好意により、広野町のオーガニックコットン栽培地にて、除草と発芽したコットン若葉の手入れなどを行うボランティアに、コミュニティデザイン学科1年生の5名が参加した。コットンの若葉より大きく育っている雑草を抜くとともに、種子が地面より出て倒れているものはないかなど確認しながら、丹念に水やりを行った。

その後、公民館に移動し、広野わいわいプロジェクトの取り組みの説明を受けたのち、自由に意見交換を行った。その中で、広野わいわいプロジェクトでは、復興のシンボルとしてオリーブの栽培に取り組んでおり、将来はオリーブオイルの収穫も行いたいと考えている。その第一弾としてオリーブの葉をパウダー状に粉碎し、それを入れたオリーブキャンドルの製作に取り組んでいるが、さらに改良を加えたいと考えており、ぜひ女子大学生の視点でその改良提案をしてもらえないかという要請があった。

持ち帰って検討することとなり、授業時間割の空時間や昼休みを活用して、オリーブキャンドルのコンセプト、活用シーン、販売ターゲット等についてグループディスカッションを行った。10月以降は具体的なオリーブキャンドルの器等の試作を行い、11月19日（土）に広野町にて試作品のプレゼンテーションを行った。

試作品は現行のオリーブキャンドルには説明も何もないことから、広野町でなぜオリーブキャンドルを作っているのかという説明とともに、生育に伴って色が変化する実についての解説を加えたペーパーをキャンドルと一緒に袋詰めするものや、広野町の風景を透明シールに印刷しオリーブキャンドルの器に貼ったもの、器の形やリボンなどにこだわったもの、木箱のデコレーションと一緒に楽しめるものなどをそれぞれが提案した。

広野わいわいプロジェクトでは、提案を次回の会議の議題として全メンバーで検討すること、そして広野わいわいプロジェクトの意見として取りまとめ、さらに学生に対して意見を求めるなど、今後も商品化、商品のブラッシュアップを支援して欲しいことなど要請された。

今後は新たなメンバーも募りながら、連携活動として広げていきたいと考えている。



図9 オーガニックコットン栽培地の手入れ



図10 意見交換の様子



図11 プレゼンテーションの様子

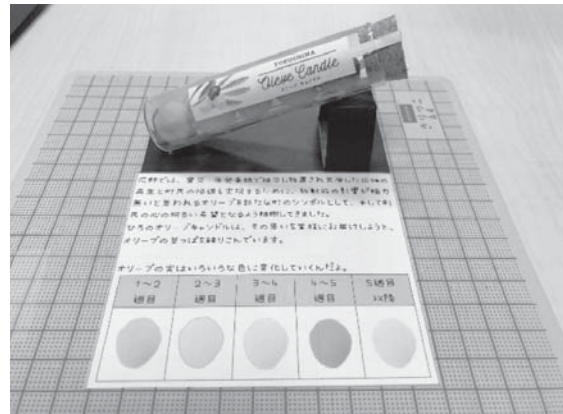


図12 提案その1



図13 提案その2

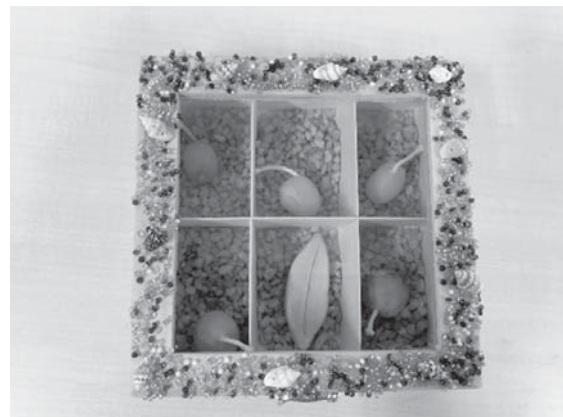


図14 提案その3

## 5-2. 北海道南富良野町での連携活動について

北海道南富良野町においては、基礎ゼミナールの学外実習先として地域活動を行う予定であったが、3度の台風上陸ならびに東北・北海道への大きな被害をもたらした台風10号により、同町中心部を流れる空知川が決壊し市街地の大部分が水没するなど甚大な被害を蒙ったことから、学外実習が延期となってしまった。

学外実習については、単位認定の問題から基礎ゼミナールとは切り離し、地域連携活動として実施を予定している。ここでは、平成29年3月に実施予定の地域連携活動の実施計画案として、その内容を記す。

○平成28年度 南富良野町における地域連携活動実施計画（案）

①事業の背景と概要

南富良野町では、地域の魅力資源である自然を活用したアウトドアガイドやエコツアーガイドが多数参入しており、地域への集客の入り口となる産業であること、他地域と差別化を図る上でも重要な地域資源であることなどから、その質・量ともに育成・充実していくことが期待されている。また、現在、「手ぶらでアウトドア」をキーワードに、地域資源のブラッシュアップ、差別化を図っているところである。

アウトドアガイドの育成には長期間の経験が不可欠であり、ガイド講習等のあらゆる機会を通じて、ガイド自らが努力をしながら、経験とノウハウの蓄積を図っていくことが重要である。しかしながら、長年の経験に基づくノウハウの伝承は、しばしば卓越したガイドであればあるほど、わかりきったことというように匠の技化し、簡単には若いガイドに引き継がれていない側面も見受けられる。また長年の経験者によるマニュアル化はなされているが、これまではガイド利用者もある程度の経験者や上級者であったり、修学旅行のように大勢の初心者を対象に、アウトドアの入り口部分の体験であったりすることから、「手ぶらでアウトドア」のように初心者でありながら、アウトドアの深い部分までを対象とするようなマニュアルはないものと考えられる。

本地域連携活動においては、このギャップを埋めるため、基本的には初心者で、まさに手ぶらで南富良野町を訪れるような都会の女性を対象として、アウトドアガイドが陥りがちな、「これぐらいは知っているだろう」というような既成概念に捕らわれることなく、また利用者が不安に感じることなく、南富良野の魅力を経験できるようなアウトドアガイド養成のためのマニュアルともなるべき基礎資料を作成する。

こうしたことから、平成28年度冬期については、冬期のアウトドア体験を実際に経験して、素人だから気づくマニュアルづくりを試行し、手法等の問題・課題をあきらかにしたうえで、夏期のインターンシップに臨むこととしたい。

【事業概要】

- インターンシップを単なる職業体験に留めることなく、町の地方総合戦略に則る事業と関連づける。
- 町の地域資源であるアウトドア体験を、より魅力あるものとするため、匠の技となっているガイドのノウハウを、視覚化し南富良野町ガイドの普遍的なノウハウとする。
- また、町内では「手ぶらでアウトドア」をキーワードに戦略を進めていることから、長年の経験を有するガイドがそのノウハウを伝えるだけでなく、全くの素人の目線からガイドに期待すること、どのようなガイドが好まれるのかなどについて情報を集約する。
- マニュアルはビジュアルなものとして、複数年かけてバージョンアップできるようなものを目指す。

②実施イメージ

- (1) インターンシップ参加学生 10名前後
- (2) 実施日程 平成28年度冬期 3月中旬
  - 1日目 午後南富良野町着 関係機関挨拶（顔合わせ）
  - 2日目 午前1、午後1～2のガイドツアー参加 来街者調査
  - 3日目
  - 4日目
  - 5日目 帰京

(3) ガイドツアー活動イメージ

- ①2～3人が1組となって、アウトドアガイドのツアーに参加する。
- ②1人は、写真担当として、ガイドからの様々な説明やサービスの場面を数多く記録する。
- ③もう1名は、ガイドからの説明や各場面での感想や実際の思いを記録（メモ）する。
- ④ガイド終了後に、写真を見ながら、各場面での感想を詳細に記録していく。
- ⑤マニュアル ver.1として取りまとめる。

⑥他のガイド、活動の種類ごとに①～⑤を繰り返す。

③概算事業費

往復航空券代	@15,000円
道内JR代	@7,000円
宿泊代	@20,000 (@5,000円×4泊：コテージ自炊プラン) (冬期)
ガイドツアー代	@30,000円 (@5,000円×6半日コース)
計	@72,000円

④期待される事業効果

- ①ガイドツアーサービス品質の向上 (短期)
- ②新規参入事業者の事業立ち上げ支援 (創業支援) 事業者数の増加、雇用確保 (中期)
- ③南富良野町のアウトドアガイドを通じた地域イメージの向上、ブランド化 (長期)
- ④利用客の増加 (町内関連事業への波及) (長期)